



「保育園は医療を支える土台」——手紙が繋いだ、院長と園長『ケアの連帯』

——指揮者のように環境を整えるトップと、人のつながりを大切にする現場の共鳴——

複雑な制度改定や効率化が求められ、慌ただしい現場の中で、職場の繋がりや経営層とのコミュニケーションに壁を感じやすい今日この頃。東葛病院おひさま保育所の村越園長と濱砂病院長が交わした一通の手紙をきっかけに、お互いの思いが深く重なり合った素敵な実践がありました。「ケアの尊厳」を軸に心をつなげたエピソードをご紹介します。

1. 「いつも見えています」——朝会の言葉に添えた感謝の手紙

きっかけは、病院長が社内連絡ツールで毎週発信していた「つぶやき」でした。これに励まされていた園長は、「院長先生の想いに応えたい」と、保育園だよりと共に感謝のお手紙を届けました。するとその当日、院長から返信のメッセージが届きます。

【院長からの返信より】「私の仕事は『皆さんが楽しく誇りを持って仕事ができる環境を整えること』と思っています。そうしたら皆さんがとても良い音を出して、患者さんにも喜んでいただける。(中略)そんな中で、今日のお手紙をいただきました。『ここにも見ていただけている人がいた!』すごくうれしくなってお手紙書いている次第です。そして保育園の仕事。患者さんと直接接するわけではない裏方の仕事ですが、その土台があるおかげでみんなが良い音を出してくれていたのですね。」

2. 葛藤の果てに届いた「ケアの原点」を綴った手紙

病院長からの温かい言葉に背中を押された園長は、実は一度は「失礼かも」と躊躇し手元に抱えていた、長文のお手紙を、勇気を出して院長へ送りました。そこには、一人暮らしの叔母様が地域の人々や介護・医療の手に助けられた実体験から学んだ「人は人と携わって生きている」という原点、「人が人を育てる営みとして、保育士自身の豊かな心を大切にしたい」という切実な葛藤が綴られていました。

【園長の手紙より】少子化の社会になり、「子ども中心」の考えが広がっているにもかかわらず、子ども達が生きづらさを感じている世の中になっている。保育の現場では、保育士の労働環境を良くしようと、処遇改善や ICT 化が進められていますが、それだけでは改善が難しいと思っています。保育は、人が人を育てる営みとして、保育士自身が豊かな心を大切にすることが原点と感じています。(中略)病院内の保育ということもあり、難しい立場ではありますが、少しでも縁の下での力持ちになればと思っています。」「院長先生のつぶやき」で頑張る勇気をいただいています。

3. 突然のチャイム! 院長先生が保育園にやってきました!!

手紙を送ってわずか1時間後。保育園の玄関チャイムが鳴り、そこにはお中元を手にした病院長の姿がありました。院長が自ら現場を訪れ、職員一人ひとりと笑顔を交わす姿に、保育園の現場は大歓声に包まれました。保育の仕事が、医療法人全体の「大切な土台」として承認された瞬間でした!!

4. お互いをリスペクトし合える素敵な職場をめざして

現在、保育や医療の現場では、複雑な加算制度やコスト管理の視点ばかりが強調され、現場と経営の間に壁が生じやすい構造があります。しかし今回の実践は、「トップが職員を信頼し環境を整える姿勢」と「現場がケアの尊厳と感謝を誠実に伝える勇気」が重なったとき、立場を超えた強固な連帯が生まれることを証明してくれました。効率や数値だけでは測れない「人と人の温かい繋がり」こそが、保育と医療の質を高める最大の原動力です。この感動的な連帯の輪を、私たちの全国の職場へも広げていきたですね。